

1 題材名 がんの治療で大切なこと

2 本時のねらい

身近な人が「がん」と診断された場合に、自分がどう接するのかを考えることを通して病気の治療に関する不安と同時に心の面の不安も大きいことに気づき、様々な不安を解消するための緩和について知り、がんと診断された場合に自分ができることについての考えを広げることができる。（思考・判断・表現）

3 本時の展開

過程	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項						
導入 5分	1 課題づくり ○前時の感想交流 ・がんは誰にでもかかる可能性があることが分かった。 ・がんになると死んでしまうかもしれないから怖い ・今の生活が続けられなくなると思うから、とても不安。 2 動画を視聴し、イメージを沸かせる。(文部科学省動画 初め～1:11 または 2:00) (3分) 身近な人が「がん」になったとき、自分ができることを考えよう。	◇前時の感想から、本時の課題につながる感想を書いている生徒を取り上げ、紹介する。 ◇誰にでもかかる可能性があること、もしがんになったらと考えると不安があることを押さえる。 ◇動画で実際の場面を視聴することにより患者の状態や、気持ちを想定できるようにする。(ホワイトボードにキーワードで状況を整理)						
展開 35分	3 課題追求 ○身近な人が「がん」と診断されたらあなたはどのようにしますか。 ワークシート 2-1 記入 (1分) [グループ交流 (10分)] → [全体交流 (12分)] <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:33%;">①がんになった人に対して</th> <th style="width:33%;">②がんになった人の代わりに</th> <th style="width:33%;">③自分自身ができること</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・体の痛みやつらさ、心のつらさ、社会的なつらさがあるんだな。私は、心のつらさの支えになりたいな。</td> <td>・自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるように支えたいな。</td> <td>・自分が今できることを一生懸命取り組むことが家族のためになるかもしれない。</td> </tr> </tbody> </table> ○できることはたくさんある。これで安心と言えるだろうか。 ・自分が家族のためにできることはあるけれど、やっぱり不安な気持ちがある。 4 外部講師に、緩和ケアについてと、具体的な話を聞く。(5分) ・がんの治療と同時に始まる緩和ケアとはどんなものか ・がん患者の心の面でサポートした事例 ・がん患者の家族の心の面をサポートした事例	①がんになった人に対して	②がんになった人の代わりに	③自分自身ができること	・体の痛みやつらさ、心のつらさ、社会的なつらさがあるんだな。私は、心のつらさの支えになりたいな。	・自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるように支えたいな。	・自分が今できることを一生懸命取り組むことが家族のためになるかもしれない。	◇グループ交流の中で、視点を明確にできることを整理させる。 ◇グループ交流の中ではなぜそう思うのかの理由も併せて話すようにする。 ◇①～③で偏りがある場合には他の項目でどんなことが考えられるか促す。 ◇それぞれのグループで出てきたことを1枚のワークシートにまとめ全体の意見が分かるようにする。 ◇全体交流の中で、自分ができることがたくさんあることを押さえるが、それでも十分ではないことを押さえ、緩和ケアにつなげる。 ※病気の治療以外に、専門家でチームを組んで対応していることを理解させる。 ・家族や自分が緩和ケアのチームを利用すればよいことを気づかせる。
①がんになった人に対して	②がんになった人の代わりに	③自分自身ができること						
・体の痛みやつらさ、心のつらさ、社会的なつらさがあるんだな。私は、心のつらさの支えになりたいな。	・自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるように支えたいな。	・自分が今できることを一生懸命取り組むことが家族のためになるかもしれない。						
まとめ 10分	5 教師の説話 ・実際に自分の家族ががんと診断されたときのことを話す。 6 振り返り (学びをつなげる) ○本時を振り返り、身近な人ががんと診断された場合に、自分ができるようなことをまとめる。 ☞相手の思いに寄り添い、自分にできることをやっていきたい。がん患者は自分の家族のことを一番に心配することが分かったから、自分が普段の生活を精一杯やっていくことも家族のためになるんだ。自分や家族がつかくならないように緩和ケアを利用し心と体が安心して治療に専念できるようにしたい。	◇学習したことを家庭で話し、感想をもらうようにすることで、実際に身近な人ががんと診断されたときに本当に相手に寄り添った関わりができるようにする。 【評価規準】思考・判断・表現 がんと診断された場合に自分ができるようなことをワークシートに記述している。						